

『笑顔あふれる学校』

学びを実感する・成長を実感する・あたたかな心を実感する

藤枝市立青島東小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	ペア顔合わせ会 1年生を迎える会	全校で異学年と積極的に交流する。 6年生が1年生のサポート	ピア・サポートの提案 指導部会での共通理解
5月	運動会	色ごと団結し、異学年で頑張りを認め、たたえ合う。 同学年同士で高め合う。	指導部会（取組の報告）
6月	授業を見合う会	あいさつについての呼びかけ	会議にて、学年ごとの子供の様子を伝え合う。
7月	1学期を振り返ろう 友達の頑張りを見つけよう	1学期を振り返り、価値付けたり、課題を考えたりする。	
8月			
9月			
10月	校内音楽会 クラブ活動 自然体験教室	ペア学年で音楽会の練習を見せ合い、良さを見つける。 異学年交流により、良さを認め合う。	会議にて、学年ごとの子供の様子を伝え合う。 指導部会（取組の報告）
11月	修学旅行 クラブ活動 授業を見合う会		
12月	クラブ活動 青東なわとび週間 2学期を振り返ろう 友達の頑張りを見つけよう	なわとびを通して自他を認め合う。 2学期を振り返り、価値付けたり、課題を考えたりする。	
1月	青東なわとび週間	クラスの良さをさらに高めるための方法を考える。	会議にて、学年ごとの子供の様子を話し合う。
2月	6年生ありがとうの会 委員会活動引継ぎ	6年生や友達への感謝の気持ちを伝える。 委員会の引継ぎを行う。	教育課程編成会議
3月	ペアありがとうの会 1年間を振り返ろう 修了式 卒業式	ペアへのお礼と感謝の気持ちを手紙などで伝える。 日頃の感謝の気持ちを全校児童で伝え合う。 1年の成長を振り返り、価値付けをする。	教育課程編成会議（活動の成果と課題）

自分からみんなのために行動する。

進んでかかわる東っ子 東小のじまん「JAS」日々の授業の中であたたかく聴く・やさしく話す
ペア遊び 委員会活動

1 本校のピア・サポート

本校では、「笑顔あふれる学校」という学校教育目標のもと、子供一人一人が自分や友達の良さを実感できるよう、本校の自慢である「J（授業）A（あいさつ）Sサポート」をスローガンに、教育活動全般でピア・サポートを推進している。相手のために何かしたいと思う子や、声を掛け合っている子が多い。また、クラブ活動など異学年と関わる場面では、子供たちのあたたかな心を感じる。子供同士で支え合い、自分や友達の良さに気づき、認め合えるよう、学校全体で取り組んでいる。

2 本年度の取組

（1）授業において

【J】授業を見合う会

「聴いて 考え つなげる授業」を研修テーマに、授業では「あたたかく聴く」「やさしく話す」を合言葉として授業づくりを行っている。授業では、友達の考えを聴いて反応したり、友達の発表を自分の言葉で言えるように主体的に聴いたりする子供が多い。年に2回行われる「授業を見合う会」では、同学年と1つ上の学年の授業を参観した。参観前には、参観する学級で意識していることを確認し、「何を視点に参観するのか」という目的意識の醸成を図った。授業後は、「聴いている人に伝わるように発表をしていた。」「反応をしっかりと、つなげて発表していた。」など、たくさんの気づきがあり、授業に対する思いを高めることができた。子供たちは、参観させてもらった学級に、「反応がよかったです。」「助け合っていたのがいいと思いました。」などの感想を伝えた。授業を見合う会を通して子供たちは、自分たちの学級の授業を振り返り、授業をよりよくしていこうとする姿がたくさん見られた。

（2）特徴的な活動

【A】あいさつ活動〈提言5,6〉

本校では、児童会を中心にあいさつの推進が行われている。毎朝、児童会と有志の子供たちが靴箱前であいさつを行っている。また、放送委員会が毎朝全校へ「おはようございます。」と呼びかけ、より良いあいさつができている学年を昼の放送で紹介している。各学級では、学級ごとにどんなあいさつの姿がいいのか話し合い、教室に掲示をしている。「どんなあいさつがいいのか」という具体的な目標を立てた。

【S】サポートの共通認識〈提言3,6〉

全校でピア・サポートの認識を一致させるために、各クラスでピア・サポートについて話し合い、代表委員会で意見を出し合った。そして、サポートは、「誰かに何かしてもらふこと」だけでなく、「自分も相手も大切にしていることになる」ということを確認した。また、放送委員会が「友達のサポートを見つけようキャンペーン」を行った。キャンペーンがあることで、日々のサポートに目を向けることができるようになった。

3 本年度の成果と来年度に向けて

授業を見合う会で同学年、高学年の授業を参観したことで、自分たちの授業の課題に気づき、よりよい授業にしていこうという意欲を高めることができた。あいさつについては、児童会を中心に活動を行ったことにより、子供たちの中であいさつを意識することができてきた。しかし、自分からあいさつをしたり、大きな声であいさつを返したりという実践につなげることが難しい子供もいる。サポートについては、代表委員会では共通認識をもったり、キャンペーンを行ったりしたため、サポートを意識する機会になった。しかし、昨年度同様、ピア・サポートを発信・共有する機会が限定的であることが、課題である。来年度は定期的に共有する機会を設け、ピア・サポートをさらに充実させていきたい。